

夜景サミット2016 inベトナム（所感）

長崎市議会議員 板坂 博之

ベトナムのホーチミン市で開催された「夜景サミット2016 inベトナム」に参加するとともに、同市に事務所を有する「JETRO（日本貿易振興機構）ホーチミン事務所」及びESUHA I（実習生教育機関）を訪問した。

1 夜景サミット2016 inベトナム

「世界新三大夜景都市」、「日本新三大夜景都市」に認定されている長崎市であるが、日本国内を見ても「日本の夜景を眺めに訪れる外国人」はまだまだ少ない状況である。

夜景サミットは一般社団法人 夜景観光コンベンション・ビューローが主催しており、海外での開催は香港、台湾に続き3回目となるが、「日本の夜景の素晴らしさ、美しさ」を伝えることは大変重要であり、今回、ホーチミン市で開催された夜景サミットに参加できたことは、大変有意義であった。

しかしながら、日本から参加した各都市が行ったプレゼンテーションでは、説明がベトナム語でしか行われなかったため、各都市がどのようなPRをしていたのか理解できなかったことが残念であった。同時通訳なり、日本語の説明文の配布があればよかったと感じた。

2 JETRO（日本貿易振興機構）ホーチミン事務所訪問

JETRO（日本貿易振興機構）ホーチミン事務所では、ベトナムの概要（南北間格差、産業構造、歴史、政治体制、経済状況、労働市場、日本との関係など）についての説明を受けた。

ベトナムに進出している日本企業の多くは、大企業などの部品工場というイメージがあったが、特に南部ではコンビニなどの商業、小売、サービス関連の企業が増えてきているとのことであった。

3 ESUHA I（実習生教育機関）訪問

ESUHA I（実習生教育機関）では、「ベトナム人材教育研修事業」など同社の事業内容の説明を受けた後、実際に実習生が授業を受けている教室を訪問した。

実習生は日本語の勉強だけではなく、あいさつなどの礼儀作法についても教育を受けているとのことだったが、実際に教室を訪問して、同社の教育方針と実習生の意欲の高さに感銘を受けた。